

顎矯正手術後の顎間固定に関連した苦痛の実態

キーワード：顎間固定・苦痛・質問紙調査

1 病棟 8 階西

坂田倫子 金重明子 磯邊香織 山本恵子

I. はじめに

当病棟の歯科口腔外科では、顎変形症患者に対する顎矯正手術を行っている。顎矯正手術は顎間固定や経管栄養など患者にとって精神的ストレスが大きい¹⁾と言われているが、当病棟でも顎間固定中にパニックに陥る患者に遭遇することがあった。患者がいつ何に苦痛を感じているかが分かれば、苦痛を軽減するためのより適切なケアができるのではないかと考えたが、当病棟ではそれについて詳細に調査したことが無かった。そこで今回は、患者の苦痛の実態を明らかにするために質問紙調査を行い、検討を加えたので報告する。

II. 研究方法

1. 調査対象：2006（平成 18）年 5 月から 2008（平成 20）年 4 月までの 2 年間に A 大学病院歯科口腔外科で顎矯正手術を受け、術後顎間固定を行った患者。ただし、同時に舌縮小術や腫瘍切除術を行ったなどの特殊な症例は除外した。
2. 調査期間：2008（平成 20）年 8 月～9 月
3. 調査方法：郵送調査を行った。患者の属性を問う項目と、術直後から顎間固定解除までの期間の苦痛に関して計 30 項目・術前に知っておきたかったことに関して計 26 項目の選択式の質問を準備した。質問項目は、実際に患者からの訴えで多いと感じているものを挙げ、深瀬²⁾の行った研究のインタビュー結果も参考にし、研究メンバーで検討し決定した。また、それぞれに自由記載欄を設けた。
4. 倫理的配慮：所属の病棟師長と看護部に研究の許可を得た。その後、対象者に、本研究の趣旨、研究方法、プライバシーの保護等を明記した依頼文を調査票に添付して郵送した。調査票の返信があれば研究に同意したものとみなした。また、回答は個人が特定されないように無記名とした。

III. 結果

対象者 47 名中 13 名（男性 2 名、女性 11 名）から有効回答が得られ、有効回答率は 27.7%であった。回答者の手術当時の年齢は、18 歳から 54 歳（全体の平均年齢 28.5 歳。男性 47.5 歳、女性 25.1 歳）で、10 代 3 名、20 代 6 名、30 代 2 名、40 代 1 名、50 代 1 名であった。

1. 術直後から顎間固定解除までの期間の苦痛

苦痛の有無については、13 名中 12 名（92.3%）が、苦痛があったと回答した。

苦痛の時期（複数回答可）については、次のようになった。「術直後」0 名、「術後 2～3 時間経過したとき」0 名、「術後 3 時間以降の術当日」2 名、「術後 1 日目」2 名、「術後 2 日目」3 名、「術後 3 日目」2 名、「術後 4 日目」0 名、「術後 7 日目」0 名、「顎間固定中ずっと」5 名（4 日間 1 名、7 日間 2 名、日数不明 2 名）、無回答 2 名。

苦痛の内容と程度を 5 段階の選択式で問うたところ、図 1 のような結果になった。「つらかった（つらかった、ややつらかった）」と半数以上が回答した項目は、次のとおりであ

る。「鼻が詰まって息苦しかった」12名(92.3%)、「顔や唇がしびれていた(感覚が無かった)」10名(76.9%)、「顔などが腫れて術前と容姿が変わった」10名、「夜中眠れなかった」10名、「口から食べたいのに食べられなかった」9名(69.2%)、「体がだるかった」9名、「息ができなくなるのではないかと怖かった」9名、「胃の管が入っていて喉が痛かった」8名(61.5%)、「話したいのに話せなかった」8名、「管が多く身動きがとれなかった」7名(53.8%)、「つばが飲み込めず(または吐き出せず)口から垂れた」7名。自由記載(表1)においても、手術部周囲の腫れや呼吸困難による苦痛が挙げられていた。また、看護師の対応、設備面に関連するものもみられた。

術後の、術前のイメージとの相違については、「思っていたよりつらかった」7名、「思っていた通りだった」4名、「思っていたより楽だった」1名、「わからない」1名であった。

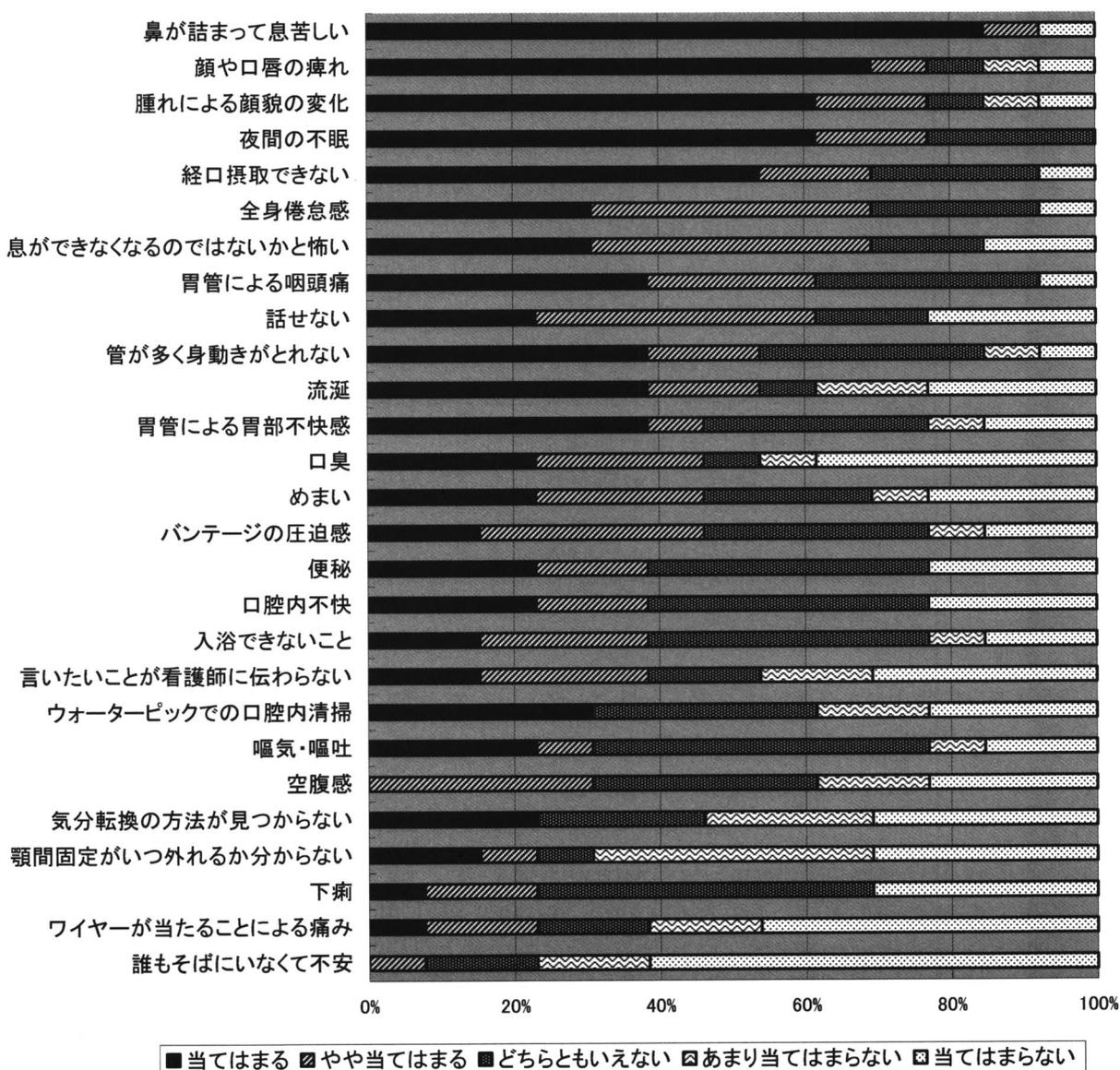


図1 術直後から顎間固定解除までの期間の苦痛

表 1

症状に関する内容
<ul style="list-style-type: none"> ・手術後 2～3 日は鼻が完全に詰まって息苦しく眠れなかった。 ・顎間固定で息が苦しくてたまらなかった。血が鼻につまって息がすごく苦しくてパニックになった。 ・手術翌日夜、分泌物が出続けるので、鼻からチューブを入れて、朝まで取り続けた。取り続けないと苦しく、息ができないのでつらかった（苦しいので 2 日程固定を外してもらった）。 ・とにかく痛みが強く、顔の腫れもひどく、このまま治らないのではないかと恐怖感に襲われた。 ・術後、顔の腫れの痛みよりも、後頭部に、ひどく、つっぱった痛みが続いて、後頭部のしびれもひどくて、仰向けになって寝れなかった。2～3 週間くらい、まともに寝れなくて、頭の痛みで、目が覚めていた。 ・術後 2 日ほど熱っぽく意識ももうろうとしていてだるかった。 <p>のどがつまって息苦しく、何度も自分で吸引した。そのせいでしばらく夜眠れなかった。</p> <p>4、5 日経つと胃管でのどや胃の辺りが苦しく、最後には（6 日後くらい）苦しくて自分で眠っている間に胃管を無意識に外してしまった。</p>
看護師の対応に関する内容
<ul style="list-style-type: none"> ・術後 1 日目の夜の流動食の時に突然体勢を変えたら吐き気がしてえづいてしまった。看護師を呼んだが、安然として、すぐに対応してくれなかった。服も汚れ、バンテージも汚れ、ひどい状態だったのに…。術後の流動食は慣れていないので、慣れないうちはそばについてくれたほうが良いと思う。
設備面に関する内容
<ul style="list-style-type: none"> ・入院生活が初めてだったので、術後身動きがままならない身体で個室に 1 人で、隣に男性の方の部屋があった時は何もないと思うけど少し怖かった。 ・ウォーターピックの部屋が遠く鍵を毎回ナースステーションに借りに行かなければいけないのでつらかった。冬でその部屋が寒かったのでなかなか行けなかった。

2. 術前に知っておきたかったこと

術前に知っておきたかった内容について 5 段階の選択式で問うたところ、「知っておきたかった（知っておきたかった、どちらかといえば知っておきたかった）」と回答した人の多かった項目は、次のような結果になった。「息がしにくい」13 名（100%）、「顔や口唇の痺れ」13 名、「手術部周囲の腫れ」13 名、「疼痛時は鎮痛剤が使用できる」13 名、「胃管による喉の痛みや胃の不快感がある」12 名（92.3%）、「嘔吐した場合、窒息の危険がある」12 名、「胃管の違和感が強い場合、胃管を抜くことがある」12 名、「痰貯留の場合、口腔・鼻腔内吸引する」12 名、「しばらく分泌物が増加する」12 名、「緊急時に使用できる金きりハサミがある」11 名（84.6%）、「顎間固定中は経管栄養となる」11 名、「胃管抜去の場合は経口で濃厚流動食をとる」11 名、「顎間固定中の水分の摂取方法」11 名、「術後はたくさん管が入っている」11 名。自由記載（表 2）では、術後の状況が予想外であったので不安だったという意見、逆に術前に十分説明があったので不安は無かったという意見があった。また、術後のことより退院後の説明がもっと欲しいという意見もあった。

表 2

<ul style="list-style-type: none"> ・顔の腫れや口の周りのしびれが思った以上に続いたので不安だった。 ・退院後しばらく喉の調子が悪く、声がかすれてなかなか治らなかった。 ・入院中、術前・術後のことについてはとても詳しく事前に説明があったので特に不安はなかった。むしろ退院後のことについて詳しく説明が欲しかった。 ・文字ボードが借りることができるのを知っておきたかった。 ・口腔内の抜糸がすごく痛かった。 ・退院後のしびれの状態や精神的ダメージ。 ・どの程度痛みがあって、どの程度腫れるのか予想が付かなかったので、術後の腫れの写真など、過去に手術をされた患者さんの術後の様子を知っておきたかった。 ・医療関係に勤めているのと、先生に手術後の事を詳しく説明して頂いていたので安心して手術を受けることができた。不安解消の為に色々なリスクを知って手術に臨む方がいいと思う。 ・ほとんど教えてもらっていたので大丈夫だった。
--

IV. 考察

1. 苦痛の内容について

顎矯正手術後は、創部の安静のために一週間程度顎間固定を行う。今回の調査で、顎間固定解除までの期間において、予想通りほとんどの患者が苦痛を感じていたことがわかった。一番多かったものは「鼻閉による呼吸困難感」で 92.3%あった。これは手術侵襲により、鼻腔や気道などの術部周辺の腫脹、分泌物の増加が生じたために起こったと考えられる。栄養摂取のため胃管が挿入されて片方の鼻腔が塞がれていることも一つの要因と考えられる。また、「呼吸できなくなるのでは、という恐怖心」を抱いていた割合が 69.2%あった。「夜間の不眠」も 76.9%と多かった。自由記載において、「夜、分泌物が出続けるので、鼻からチューブを入れて朝まで取り続けた」、「喉が詰まって息苦しく、何度も自分で吸引した。そのせいでしばらく夜眠れなかった」との回答があった。顎間固定中は上下の顎が固定されており開口できないので、口腔内分泌物の排出が困難となる。また前述のように術部周囲の腫れもあるために息苦しく、昼夜問わず口腔・鼻腔内吸引の必要があり、十分な睡眠が得られなかったと考えられる。顎矯正術後 2~3 日は手術部位周囲の浮腫が著明な時期³⁾といわれている。苦痛の時期においても、術後 3 日目までが 69.2%を占めていた。

「腫れによる顔貌の変化」は、息苦しきの苦痛よりは少ないものの 76.9%と多かった。深谷⁴⁾は、顎矯正手術を受ける患者にとって、手術の成功は咬合機能の改善と顔貌の改善によって肉体的・精神的障害が除かれることであろうと述べている。また、顎矯正手術は顎の成長が終了する 17~18 歳以降の若年成人であることが多い¹⁾が、今回の調査の回答者の平均年齢も 28.5 歳と若く、また大半が女性であった。患者の顔貌の改善に対する関心は高いと予想され、それを反映した結果とも考えられる。「顔や口唇の痺れ」も同率の 76.9%であった。自由記載でも、「顔の腫れや口の周りのしびれが思った以上に続いたので不安だった」とあった。顎矯正術では顎の神経を損傷する可能性は高いが、ビタミン剤などの投与によりほとんどが 6 ヶ月以内で回復する⁵⁾といわれている。どのくらい症状が続くのか、見通しを伝えることが大切であるといえる。

「経口摂取できない」ことは69.2%、「話せない」ことは61.5%が苦痛と感じていた。古賀⁶⁾の研究では、顎間固定患者のほとんどの症例で食事や会話に不自由を感じていたとの結果が出ており、今回の研究でも同様の結果となった。呼吸、食事、会話は、口腔に関する重要な機能であり、これらが障害されることによる苦痛は大きいといえる。

2. 看護の方向性について

今回は、術前オリエンテーションのパンフレット作成も視野に入れて調査を行った。術前に知っておきたかった内容はどんなことか問う設問では、準備した項目全てで、半数以上の患者が知っておきたかった内容と回答した。「息がしにくい」、「顔や口唇の痺れが出る」、「手術部位周囲が腫れる」、「疼痛時は鎮痛剤が使用できる」ことは全員が挙げ、多くの患者が術後苦痛を感じた内容とほぼ一致していた。自由記載においても、「顔の腫れや口の周りの痺れが思った以上に続いたので不安だった」、「どの程度痛みや腫れが出るのか予想がつかなかったので、術後の腫れの写真など、術後の様子を知っておきたかった」との回答があった。一方、「入院中、術前・術後のことについてはとても詳しく事前に説明があったので特に不安はなかった」、「手術後の事を詳しく説明してもらっていたので安心して手術を受けることができた」との意見もみられた。術前に術後の説明を十分受けて術後のイメージができていた人は、苦痛や不安の程度は軽かったようである。井上⁷⁾は、術前オリエンテーションが真に目指すものは身体の準備とともに、適切な情報提供による患者の手術に対するイメージづくりと、コントロール感覚の維持・獲得ならびにコーピング方略を養うための心理的準備であると述べている。術後はどんな状況になるのかという見通しや、苦痛がいつ頃まで続くのか、またそれに対してどのようにすれば克服できるかなどの情報を得て術前からイメージすることで、術後の心構えができ、術後の苦痛を乗り越えることができたと考えられる。

しかし、近年、入院期間は短縮してきており、患者への術前オリエンテーションに割ける時間は短くなってきている。医師からの手術説明も手術が決定してから入院前に外来で行われることも多い。そのため、看護師はそれぞれの患者がどの程度手術や術後の状況に関して理解しているか、全てを把握しきれないことがある。患者に対して効果的にオリエンテーションを行うには、病棟・外来間の連携、医師や歯科衛生士などの他職種との連携が不可欠である。今後は、この調査結果をもとに術前パンフレットの作成を行うとともに、効果的なオリエンテーションを行うための方策を探っていきたい。

また今回の調査は、術直後から顎間固定解除までの期間の苦痛に関する援助を目標に行ったが、退院後の説明がもっと欲しいという意見もあり、これは今後の課題である。

V. まとめ

1. 顎間固定中の苦痛で多かったのは、口腔の重要な機能である呼吸、食事、会話に関するものだった。
2. 術前オリエンテーションにより術後起こる状況とそれに対する対策をイメージすることで、患者は術後の状況への適応がしやすくなり、術後の苦痛の軽減につながる。
3. 効果的に術前オリエンテーションを行うには他職種での連携が不可欠である。
4. 術後の説明だけでなく、退院後の生活についても詳しく説明が欲しいという要望があった。

VI. 引用文献

- 1) 日野原重明・井村裕夫監修：看護のための最新医学講座 23 歯科口腔系疾患，中山書店，p76，2001.
- 2) 深瀬梢，石橋直美，山田昌子：顎間固定患者の術前パンフレット作成への取りくみ 患者の不满・不安・苦痛の実態と看護師の術前オリエンテーションの現状から，日本看護学会論文集 成人看護 I，37号，p272 - 274，2007.
- 3) 高橋庄二郎，黒田敬之，飯塚忠彦編：顎変形症治療アトラス，医歯薬出版，p114，2001.
- 4) 前掲書 3)，p104.
- 5) 前掲書 1)，301.
- 6) 古賀千尋，境野秀宣，福田健司ほか：顎間固定患者のストレスに関するアンケート調査と生化学的検査，日本歯科心身医学学会雑誌 11(1)p16 - 21，1996.
- 7) 数間恵子・井上智子・横井郁子編：〈看護 QOL BOOKS〉手術患者の QOL と看護，医学書院，p25 - 34，1999.